

トリコモナス検出用 アキュレート™ トリコモナス培地-N

— はじめに —

膾トリコモナスの検出には、直接塗抹鏡検法と培養後塗抹鏡検法の二つがありますが、一般的に後者のほうが、検出率がすぐれているといわれています。

少数の膾トリコモナスを確実に検出するためには、被検材料を培養して膾トリコモナスを増殖させたのち鏡検するという、細菌に用いられているのと類似した方法を用いる必要があります。

アキュレート™トリコモナス培地-Nはこのような目的にかなうように、膾トリコモナスの存在を培地の色調変化で容易に確認できるようにしたものです。

—— 特 徴 ——

1. そのまま被検材料を接種して使用することができます。
2. 膾トリコモナスは嫌気性微生物ですが、本培地中のL-システイン塩酸塩、カンテンは培地の酸化還元電位を低下させて、培地を嫌気状態に保っているため、接種した培地をそのままフラン器に入れることができます。
3. 膾トリコモナスが増殖すると培地の色調が赤色から黄色に変化するため、目視によるスクリーニング判定が容易な培地です。
4. 本培地成分中には膾トリコモナスの発育に適する各種のアミノ酸および発育因子が豊富に含まれ、かつ、抗生物質が細菌の発育を抑制するので、少数の膾トリコモナスでもよく増殖し高い検出率が得られます。

—— 成 分 組 成 ——

本品 1L 中

ペプトン	30.0g	クエン酸鉄(Ⅲ)アンモニウム	0.025g
ブドウ糖	10.0g	ベーシックレッド	0.02g
塩化ナトリウム	2.0g	寒天	1.0g
リン酸2水素カリウム	0.6g	発育補助ビタミン液	
リン酸水素2カリウム	1.0g	混合抗生剤溶液	
L-システイン塩酸塩	1.0g	血清	

pH 6.0±0.2

- 使用および判定方法 -

被検材料(帯下)などを滅菌済みの器具を用いて採取して本培地の深部に接種し、キャップを閉めてフラン器(37°C)で1~7日間培養します。

培養中に培地の色が黄色に変化した場合、膾トリコモナスの存在が疑われます。

ただし、最終判定は顕微鏡で虫体の存在を確認して、確定としてください。

【試験管キャップ開封方法】

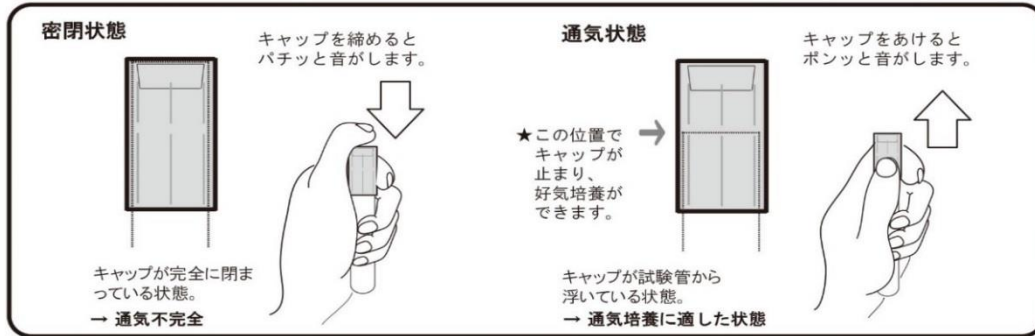
・試験管のキャップを開封する際は、キャップを人差し指と親指で軽く挟みながら押し上げると容易に開封することができます。下図参照

※注意点：キャップを強く握った状態で作業すると試験管に圧がかかり、破損する可能性がありますのでご注意ください。

【試験管キャップイメージ図】



【通気状態(試験管とキャップ位置)】



—— 使用上の注意 ——

膾トリコモナスの検出を高めるには

1. 検体採取後ただちに（または、なるべく早く）、あらかじめ 30°C 前後に温めておいた培地に接種しフラン器に入れてください。

膾トリコモナスは乾燥にきわめて抵抗力が弱く、虫体を含む検体が完全に乾燥すれば直ちに死滅し、乾燥に至る間の経過中にも急速に死滅します。

2. 鏡検時の温度

膾トリコモナスは運動性を指標にして検出してください。運動は低温によって容易に失われます。温暖な時期はともかく、寒冷な時期は室温を少なくとも 20°C 程度に保つか、顕微鏡やスライドグラスなどを保温してください。

3. 検出のコツ

強い光で鏡検すれば、膾トリコモナスの虫体を透過してしまう恐れがあります。コンデンサーとしぼりを操作して、暗めの視野としてください。

拡大は 10×10 倍程度で行い、虫体の運動がなく、鞭毛や波動膜だけ動かしている場合は、それと思われるものをさらに拡大して確かめてください。

—— 貯法・使用期限 ——

（貯法） 冷所（4～9°C）に保存。

（使用期限） 製造後 3 ヶ月間。

—— 包装単位 ——

4mL×20 本入り

Code 05745

4mL×50 本入り（受注生産品）

Code 05746

販売元

島津ダイアグノスティクス 株式会社

東京都台東区上野 3-24-6 〒110-0005 TEL 03(5846)5611(代)